

# 対面授業におけるスピーキングとリスニング活動の代替として Flipgrid を活用した際の受講生の意見

## Students' Perceptions towards the Use of Flipgrid as an Alternative to In-class Speaking and Listening Activities

山 下 道 世  
Michiyo Yamashita

( 要 約 )

新型コロナウイルス感染症防止のため、近畿地方の短期大学の英語コミュニケーションの対面授業では、従来のような会話練習が難しい状況となった。そのため既習事項に基づくトピックについて英作をさせた後、Flipgrid を用いてその内容を録音・投稿させる活動を2回行った。本研究の目的は、対面授業におけるスピーキングとリスニング活動の代替としてFlipgridを活用し、受講生の意見を明らかにすることである。27名へのアンケート調査から、Flipgridの活用に対する意見は概して肯定的であり、特にリスニングスキルの向上に役立ったと考えていることが示された。しかし、録音の内容が理解できなかった受講生がいるという課題も明らかになった。

(キーワード)

Flipgrid、スピーキング、リスニング

### 1. はじめに

2020年4月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来通りに授業を行うことが難しくなった。近畿地方の短期大学では授業開始が延期され、4月末からはオンデマンドを中心とした遠隔授業が始められた。6月からは対面授業に切り替えられたものの、授業中は密を回避するために受講生同士の座席の間隔を空け、また飛沫を防止するために授業中の発声は最低限にとどめる必要があった。英語コミュニケーションの授業では、これまでテーマごとに語句や文法事項を学びリスニング活動を行った後、既習事項を用いてペアで会話練習を行っていたが、授業展開の方法の変更を余儀なくされた。そこで、スピーキングとリスニングの機会を確保するために、対面授業開始後Flipgridを活用した。

Flipgridとは、オンライン上で教員があらかじめ設定したトピックについて、学生が最長2分のビデオを撮影し、それをクラスメイトと共有したり、文字の代わりにビデオでコメントを返したりすることができるツールである。Flipgridは2014年にミネソタ大学のチャールズ・ミラー准教授によって開発された。2018年にMicrosoftに買収されてからは教育機関向けも無料で利用できるようになった(Young, 2018)。これまでの動画を介したウェブ上のコミュニケーションツールでは、録画した動画を利用者が自らそのウェブサイトにアップロードするという手間があったがFlipgridはそれを無くした(Miskam & Saidalvi, 2019)ために、使いやすい。

### 2. 先行研究

Flipgridは外国語教育や国際交流学習(山本他, 2020; 永田, 2019, 2020; Lee, 2020)、母語による口頭

発表スキルの向上 (Miskam & Saidalvi, 2019)などを目的に高等教育機関の授業で活用され、その有用性が報告されている。外国語教育の分野では、例えば日本の大学でドイツ語を学ぶ日本人学生とドイツの大学で日本語を学ぶドイツ人学生とが交流を通してお互いの言語を学ぶために Flipgrid が用いられた。日本人学生 82 名を対象としたアンケートから、「ビデオ撮影という目標が学習の動機付けになり、記憶の定着、文法や語彙習得、さらには自分自身の学習の振り返りにも役立っている」ことが報告されている (岩居, 2019, p.29)。また、韓国の大学のビジネス英語のライティングの授業では、(1) 使用が簡単なツールを提供し、(2) 授業外の英語のスピーキング時間を増やし、(3) 英語を話すことに対する不安を解消するために Flipgrid を用いた課題を受講生に 1 ヶ月間に 4 回課した (McLain, 2018)。教員による授業観察、アンケート (回答者 118 名)、Flipgrid のビデオの長さや数を分析した結果、Flipgrid の使用は簡単であり、受講生はスピーキングの時間が増えたと感じているだけでなく、英語を話すことに対する不安が軽減されたことが示された (McLain, 2018)。また、授業外でスピーキングとリスニングを練習させることを目的に、Mango (2019)はアメリカの大学でアラビア語の受講生 30 名に対して、週に 1 回 4 週間に渡って録音やビデオで質問を投げかけるなどの課題を与え、その回答となる録音を投稿させた。アンケートから、受講生はアラビア語の学習に Flipgrid が効果的だと感じていることが示された (Mango, 2019)。このように Flipgrid は、様々な国で外国語教育に取り入れられ、そのメリットが示されている。しかし、授業中に受講生同士が対面で会話を通したスピーキングやリスニング活動を行うことが難しい状況下で、その代替として Flipgrid を活用し、受講生の意見を調査した研究を筆者が探した限り見つけることができなかった。

### 3. 目的

この研究の目的は、英語コミュニケーションの受講生同士が会話を通したスピーキングやリスニング活動を行うことが困難なコロナ禍において、その代替として Flipgrid を活用し、受講生の意見を明らかにすることである。具体的には、Flipgrid の活用に対する総合的な評価、スピーキングスキル・リスニングスキル、活動への取り組み、クラスメイトとの関り、の 4 項目について受講生の意見を明らかにすることである。

## 4. 研究方法

### 4-1. 調査対象者

本研究の協力者は近畿地方の短期大学に通う英語非専攻の 1 年生で、筆者が担当する週に 1 回 (90 分)の共通教養選択科目の英語コミュニケーションを 2020 年前期に受講した学生であった。実際の受講生は 31 名であったが、Flipgrid への 2 回の投稿のうち、1 回、または 2 回とも行わなかった 3 名とアンケートを行った当日に授業を欠席した 1 名は除外して分析したため、調査対象者は 27 名 (全受講生の 87%) であった。

### 4-2. Flipgrid を活用した授業実践

Flipgrid を活用した授業実践は、対面授業が開始されてから行った。その具体的な手順は次のとおり

である。事前準備として、筆者が Flipgrid に登録し、grid と呼ばれるフォルダと課題となるトピック (My Dream House と My Favorite Person) を作成した。また、投稿された録音は公開・非公開が選択できるが、この授業の受講生間のみ互いの投稿を聴取できる設定とした。その後、授業で使い方についてまとめた資料を受講生に配布しパワーポイントスライドを用いて説明した。また、注意事項として、クラスメイトが投稿した録音にコメントを返す際は、相手を傷つけるような発言は絶対にしないこと、また、クラスメイトの録音をコピーしたり、ネット上にあげたり、他の人と共有したりしては絶対にいけないことを資料に明記し口頭で説明をした。説明の後、各自のスマートフォンまたはノートパソコンからログインできるかどうか確認させた。Flipgrid への学生のログイン方法は (1) 学生が在籍する教育機関作成の学生用 gmail または Microsoft のアカウント、(2) 事前に設定された ID とコードまたは QR コード、の 2 つから選択できる。今回はより安全性が高いとされる (1) の短期大学が作成した学生用 gmail アカウントを使ってログインさせた。

授業では、まず受講生は教科書のテーマに沿って重要語句や文法を学び、CD のリスニング問題に取り組み、その後英作しその内容を Flipgrid に投稿した。英作の際はルールを設け、例えば 1 回目のトピックである My Dream House では、There is/There are と in, on, at, across from, next to などの前置詞 (句) を用いること、できる限り具体的に説明すること、最低 4、5 文は書くこととした。また投稿時の評価観点はゆっくり、はっきり、分かりやすく、大きな声で話しているか、とした。なお、英作文を覚えて録音した場合は加点すると伝えたが、実際に覚えた受講生は 1 人もいなかった。授業中に英作に取り組みせる前に筆者が発表して例を示して解説を加えると同時に、同じ内容のビデオ (1 回目) ・録音 (2 回目) をあらかじめ Flipgrid に投稿し、受講生が英作したり録音したりする際参考にできるようにした。英作文は添削し評価した後返却した。また、投稿前には英作で使った単語の発音とアクセントを英語辞典のウェブサイトである ALC の英辞郎を使ったり、筆者に聞いたりして確認するよう促した。当初の予定では、スマートフォンまたはノートパソコンのカメラの前で話している様子をそのまま録画して投稿してもらうつもりであったが、事前のアンケートで 3 分の 1 程度の受講生から顔を出すことに対して不安を感じるとの意見が出されたことから、音声のみの録音でもよいこととした。2 回目は、各自が選んだ My Favorite Person の写真を画面に映させながら録音させた。受講生は清書した英文を Flipgrid 上で数十秒かけて読み上げて録音し投稿した。1 回目の投稿時にのみ、パートナーとなった相手の投稿を Flipgrid で聞き、音声を録音してコメントを返すという課題も課した。パートナーは、別のテーマを学習した際に主にライティングでのコミュニケーション活動を一緒に行っていた班のメンバー同士とした。

次に、各受講生の録音を筆者が評価観点に従って確認した。録音を聞いた後、あらかじめコピーしておいた受講生の英作文を見ながら、聞こえにくい箇所や発音の間違いなどを赤字で記入し、返却した。英作文の内容が特に良かった受講生 2 人と Flipgrid での話し方が最も良かった 2 人、合計 4 人の英作文をパワーポイントスライドにまとめておき、投稿の翌週の授業の始めに該当する受講生 1 人ずつ順番に黒板の前で発表してもらった。また、発表後は内容について難しいと思われる表現などを中心に日本語で説明をしてもらい、最後に筆者が特に良かったところをコメントし、2 回目または今後の参考にして

もらえるよう工夫した。

Flipgrid に投稿された録音の受講生全体の聴取回数は1回目のトピック My Dream House の方が、2回目のトピック My Favorite Person よりも回数が多く、時間も長かった。1回目は合計 3310 回聴取され、時間に換算すると 18.5 時間が費やされた。2回目は 1270 回、8.9 時間聴取された。なお、これらの聴取回数と時間には、筆者が評価のために聴取したのも含まれる。このように再生回数と聴取時間に違いがある理由は2つ考えられる。まず、1回目は初めての取り組みであったため、他の受講生や教員の録音に関心が高かったことである。次に1回目ではパートナーの録音にコメントを返すというタスクがあったため、繰り返し録音を聞いたことが想像できる。しかし、コメントを返した受講生は半数程度であったため、2回目はそれを自由にした。

#### 4-3. データ収集・分析方法

アンケート調査は、学習支援システム manaba のアンケート機能を用いて、一連の流れがすべて終了した日に行った。調査への参加は自由であり、協力しなかったり途中で辞退したりしても不利益を被ることはないこと、授業の成績とは一切関係ないこと、個人が特定されないことを文書と口頭で説明したところ、1名の欠席者を除く 30 名から回答があった。ただし、先述の理由により最終的な調査対象者は 27 名であった。

質問項目は単一選択の 15 問に加えて、最後に自由記述欄（「Flipgrid を使った学習について感想などをお聞かせください」）を設けた。回答には 5 件法（5＝とてもそう思う、4＝そう思う、3＝どちらとも言えない、2＝そう思わない、1＝全くそう思わない）を用いた。問については、Mango (2019) のものと同様の項目を用いたが、内容が重複していると考えられる問があったため、18 問から 15 問に減らし、一部文言を変更した。問 1 から問 5 は Flipgrid の活用に対する総合的な評価、問 6 から問 10 はスピーキングとリスニングスキルに関するもの、問 11 と問 12 は活動への取り組みの程度に関するもの、問 13 から問 15 はクラスメイトとの関わりに関するものであった。問の量的分析については、各問における回答の人数分布とパーセンテージ、平均値、標準偏差を出した。また自由記述の分析については、回答にキーワードを付けて概念グループを作成した。

## 5. 結果と考察

### 5-1. 単一選択の回答（5 件法）

表 1 から分かるように、問 1 から問 5 で Flipgrid の活用に対する総合的な評価について尋ねたところ、5 つの問のうち 4 問で平均値が 4.00（そう思う）を超えた。まず問 2 の平均値は 4.22 であり、「Flipgrid の使い方は簡単だった」と感じていることが分かる。これは Mango(2019)や MacLain(2018)と同様の傾向である。次に問 1「Flipgrid はこの授業の学習補助として役立った」、問 3「Flipgrid はこの授業の学習に役立った」、問 4「クラスメイトの Flipgrid を見たり聞いたりすることを楽しんだ」の平均値はそれぞれ 4.29、4.19、4.15 であり、調査対象者は概ね Flipgrid が英語コミュニケーションの学びに役立ったと感じているだけでなく、比較的楽しみながら取り組んだことが読み取れる。しかし、問 5「英語学習に Flipgrid を使うことが好きだ」では平均値 が 3.41 に留まり、55.5%が「どちらともいえない」または

表1 アンケート（単一選択）の結果

	M	SD	5 (とても そう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらとも いえない)	2 (そう 思わない)	1 (全くそう 思わない)
Flipgridの活用 に対する 総合的な評価	1. Flipgridは、 この授業の学習補助として役立った	4.29	0.66	11(40.7%)	13(48.1%)	3(11.1%)	
	2. Flipgridの使い方は簡単だった	4.22	0.74	10(37.0%)	14(51.8%)	2(7.4%)	1(3.7%)
	3. Flipgridは この授業の学習に役立った	4.19	0.70	9(33.3%)	14(51.8%)	4(14.8%)	
	4. クラスメイトの Flipgridを 見たり聞いたりすることを楽しんだ	4.15	1.00	13(48.1%)	7(25.9%)	5(18.5%)	2(7.4%)
	5. 英語学習に Flipgridを使うことが 好きだ	3.41	1.00	4(14.8%)	8(29.6%)	10(37.0%)	5(18.5%)
スピーキング スキル・ リスニング スキル	6. 担当教員の録音は、 私の英語学習に役立った	4.41	0.60	12(44.4%)	14(51.8%)	1(3.7%)	
	7. クラスメイトの録音を聞くことは、 私のリスニングスキルの向上に役立った	4.19	0.70	8(29.6%)	17(62.9%)	1(3.7%)	1(3.7%)
	8. 自分の声を録音することは、 私のスピーキングスキルの向上に役立った	3.96	0.70	5(18.5%)	17(62.9%)	4(14.8%)	1(3.7%)
	9. 自分の録音した声を聴くことは、 英語学習に役立った	3.96	0.90	8(29.6%)	13(48.1%)	3(11.1%)	3(11.1%)
活動への 取り組み	10. 自分の声を録音することは、 私の英語の発音の向上に役立った	3.93	0.80	6(22.2%)	14(51.8%)	6(22.2%)	1(3.7%)
	11. 私は課題を録音する時に、繰り返し 練習した（録音を何度もやり直した）	4.00	1.10	9(33.3%)	14(51.8%)	1(3.7%)	1(3.7%)
	12. 録音をする時のほうが、 対面で話すよりもよく考えて話した	4.00	1.10	11(40.7%)	8(29.6%)	6(22.2%)	1(3.7%)
クラスメイト との関り	13. Flipgridは、スピーキング活動に 参加するのに役立った	4.15	0.60	8(29.6%)	15(55.5%)	4(14.8%)	
	14. Flipgridは、人前で話すスキルについて 自信を向上させることに役立った	3.78	0.90	7(25.9%)	9(33.3%)	9(33.3%)	2(7.4%)
	15. Flipgridは、クラスメイトと良い関係を 作るのに役立った	3.70	1.00	8(29.6%)	6(22.2%)	11(40.7%)	1(3.7%)

う思わない」と回答した。問4の結果も踏まえると、話すことよりも聞くことを好んでいることが推測できる。

スピーキングスキル・リスニングスキルについて尋ねた問6から問10では、調査対象者は問8のスピーキングスキルの向上（平均値3.96）よりも問7のリスニングスキルの向上（平均値4.19）に役立ったと感じていることが分かる。このことは、両問に肯定的な回答をした調査対象者のパーセンテージを比較するとより明らかである。つまり、スピーキングスキルでは81.4%であったが、リスニングスキルでは92.5%であった。次に問9「自分の録音した声を聴くことは、英語学習に役立った」（平均値3.96）と問10「自分の声を録音することは、私の英語の発音の向上に役立った」（平均値3.93）についても、リスニングスキルの向上に比べると平均値が低い。最後に、問6「担当教員の録音は、私の英語学習に役立った」（平均値4.41）では5問の中で最も高い割合の調査対象者が肯定的な回答をしたが、Mango (2019)の調査でも同様の傾向がみられた。これは初めて取り組みをする際に参考になったからではないかと考える。

取り組みに関する問11と問12では平均値はそれぞれ4.00であったが、肯定的な回答をした調査対象者のパーセンテージでは14.8ポイントの違いがみられた。具体的には、問11「私は課題を録音するときに、繰り返し練習した（録音を何度もやり直した）」では肯定的な回答をした調査対象者は85.1%であったが、問12「録音する時のほうが、対面で話すよりもよく考えて話した」では70.3%にとどまり、

「どちらともいえない」を含めると必ずしも対面で話すよりもよく考えて話していない調査対象者がおよそ 30%いる結果となった。

最後に、問 13 から問 15 のクラスメイトとの関わりに関連した問では、問 13 「Flipgrid は、スピーキング活動に参加するのに役立った」の平均値は 4.15 であった。その一方で、問 14 「人前で話すスキルについて自信を向上させる」と問 15 「クラスメイトと良い関係を作るのに役立った」では、平均値がそれぞれ 3.78 と 3.70 であり、「どちらともいえない」「そう思わない」「全くそう思わない」のいずれかを選んだ調査対象者が 40%から 50%程度いる。

単一選択の回答から、調査対象者は Flipgrid が総合的には英語コミュニケーションの授業に役立ち、特にリスニングスキルの向上に役立ったと考えていることが示された。その一方で、Flipgrid の使用を積極的に好んでいるのは 5 割程度となった。また人前で話す自信を付けたり、クラスメイトと良好な関係を築いたりすることに関しても肯定的な回答の割合は比較的低かった。

## 5-2. 記述回答

自由記述では調査対象者である 27 名中 26 名が何らかのコメントをした。その内容は Flipgrid の使用に関すること (11 件)、発音や話し方に関すること (11 件)、クラスメイトの録音の聴取に関すること (10 件)、恥ずかしさや緊張の有無に関すること (5 件)、その他 (4 件) の 5 項目に大別できる。なお、1 人の調査対象者が複数の内容についてコメントをした場合は、それぞれの項目にカウントした。

はじめに、Flipgrid の使用に関する 11 件のコメントのうち、5 件が使いづらさに関連する内容であり、単一選択の回答よりも、否定的なコメントが 2 人分増えている。5 件のうち 3 件が、使いづらさの原因が Flipgrid の説明が英語であることに由来することを示している。例えば、「英語で全部書かれているから間違えてあげてしまって消すときに英語が読めないから時間がかかりました」とのコメントがあった。ほかの 2 件のうち、1 件は英語とは直接書かれていないが、先述のコメントと類似した内容であった。もう 1 件は初めての取り組みであったために、使いづらさを感じたというものであった。その一方で残りの 6 件のコメントは使いやすさに関連するものであった。

次に、発音や話し方に関するコメントが 11 件あった。まず発音に関する 6 件のコメントのうち、自分の発音が聴取できることについての肯定的なコメントが 5 件あった。その中の 2 件は、「自分の発音とか聞き直せて、改善できる点がよかった」「自分の発音がダメだった場所が分かりやすくてよかった」といったように改善できることや間違いに気付けることの良さについて言及していた。また、1 件はクラスメイトの発音が参考になったという記述であった。

次に話し方に関する 5 件の記述では、自分の発表を録音する際に何度も練習をしたり (3 件)、聴き取りやすさを意識したりした (2 件) との回答があった。例えばそのうちの 1 件は、「録音する時に、発音やスムーズに読むということを気にしました。そのために何度も撮り直したり、録音する前に練習をしたので、スピーキング練習がしっかりできたと思います。こういう機会があると、英語能力をアップさせようという向上心が湧いてくるので良いなと思いました」というコメントであった。また「どのくらいのボリュームで話せばいいのかとかもっとハキハキ話さなければ相手が聞き取りにくいのかと考えな

がらすることによってスピーチの難しさを痛感しました」との意見があった。しかし、「高校でしていた発表は前日からきちんと準備していたが、今回事前準備はあまり必要なく、気軽にできた」とのコメントも1件あった。

クラスメイトの録音の聴取に関することでは、10件のうち7件が肯定的なコメントであった。クラスメイトの発表を聞くことができ良かったといったものが4件、聞くことが楽しかったとのコメントが2件あった。例えば、「はじめは自分の声を録音するのが恥ずかしかったり嫌だなと思っていましたが、みんなの録音を聞いているとどのようなことを言っているのかを聞くのが楽しくなり、恥ずかしさや嫌さは感じなくなりました」との意見があった。他には「リスニングが少しはできるようになった」との意見が1件あった。

その一方で課題も明らかになった。「友達の[録音]を聞いた時、分からない単語があったり、聞き取れなかったので話している内容が分からなかった事があった」との記述があった。さらに「たくさんの人の発表を聞くことができるので良かったです」としたうえで「でも私は聞き取れない英単語もあったのでその人の発表を書いた紙などが手元にあると理解して聞けたかなと思います」のように具体的な改善方法を提案するコメントがあった。1回目の時にコメントを返した受講生が半数程度にとどまった理由の1つには、このような背景があったことも考えられる。この点に関して、筆者自身も受講生の投稿を聞いた際に聴き取りづらさを感じたことがあった。今後は、例えば大意を掴んだ後、詳細に焦点を当てるなどのリスニング活動を授業中に取り入れることを検討したい。具体的には最初にパートナーの録音を数回聞かせ、大意を取らせる。次に、録音のスクリプトを渡し、不明瞭な箇所に下線を引かせ、分からなかった理由について知らなかった語句と発音や話し方が適切でない語句、の2つに分類してもらう。最後に聴取者が知らなかった語句は記録し、反対に発音や話し方が不適切だった場所は投稿者に示して直させるといった活動を追加し、より深い学びにつながる活動にしていきたい。

恥ずかしさや緊張の有無については、「音声だけを録音することは恥ずかしかった」とのコメントが1件あった反面、顔を隠せることが良かったとのコメントも2件あった。この点については、事前アンケートの結果を反映して顔を出さずに音声のみの録音としたことが良かったと考えられる。更に先述のコメントのように、楽しさを恥ずかしさが上回ったケースがあった。また、「前で話すよりも緊張することも少なかったので良かったです」と対面で話さなくてよいことに対する利点を述べた受講生もいた。

その他のコメントには「英語を話す良い機会になったと思います」や「よかったです」のほかに、「人と接触しなくても会話ができるのはいいと思った」というようにコロナ禍にFlipgridを用いるメリットについて言及したものがあった。最後に、「自分が書いた文を人に言うことによってその答えが返ってくるころが良かったなと思いました」というように発表して終わりではなく、相手から反応が返ってくることの良さについてのコメントがあった。

## 6. まとめと今後の課題

英語コミュニケーションの受講生同士が対面で会話を通したスピーキングやリスニング活動を行うことが困難なコロナ禍において、その代替としてFlipgridを活用した。その結果、調査対象者のFlipgrid

の活用に対する意見は概ね肯定的であり、特にリスニングの向上に役立ったと感じていることが示された。その一方で英語学習に Flipgrid を使うことが好きだと回答としたのは、調査対象者の半数以下であった。また、人前で話す自信を付けたり、クラスメイトとの良好な関係を築いたりすることに対しても肯定的な回答は4割から5割であった。一番の課題としては録音の内容が聞き取れないケースがあったことである。対面での会話であれば直接聞き返して内容の確認が可能であるが、Flipgrid ではそれができない状況であった。今後 Flipgrid を活用する際には、授業中に Flipgrid の録音を聞いたうえで、内容を確かめる活動を取り入れたい。

本研究の限界としては次の3点が挙げられる。まず、今回の結果はあくまでも調査対象者の主観によるものである。次に、Flipgrid の活用回数が2回と少ない。最後にサンプルサイズ (n=27) が小さいため一般化はできない。

今後も受講生の学びを保証するために可能な限りその時々状況に応じた対応を検討していきたい。

## 引用文献

- Lee, L. (2020). Promoting interpersonal and intercultural communication with Flipgrid: Design, implementation, and outcomes. In Kruk, M. & Peterson, M. (Eds.), *New Technological Applications for Foreign and Second Language Learning and Teaching* (pp. 261-268). Hershey: IGI Global.
- Mango, O. (2019). Students' perceptions and attitudes toward the use of Flipgrid in the language classroom. In K. Graziano (Ed.), *Proceedings of Society for Information Technology & Teacher Education International Conference* (pp. 1970-1973). Las Vegas, NV, United States: Association for the Advancement of Computing in Education. <https://www.learntechlib.org/primary/p/207916/>.
- McLain, T. (2018). Integration of the video response app Flipgrid in the business writing classroom. *International Journal of Educational Technology and Learning*, 4(2), 68-75.
- Miskam, N.N. & Saidalvi, A. (2019). The use of Flipgrid for teaching oral presentation skills to engineering students. *International Journal of Recent Technology and Engineering*, 8(1C2), 536-541.
- Young, J. (2018, June18). Microsoft Buys Video-Discussion Platform Flipgrid. [www.edsurge.com/news/2018-06-18-microsoft-buys-video-discussion-platform-flipgrid](http://www.edsurge.com/news/2018-06-18-microsoft-buys-video-discussion-platform-flipgrid).
- 岩居弘樹 (2019). 「学びの成果をビデオに残す試み」『サイバーメディア・フォーラム』19, 25-30. <http://hdl.handle.net/11094/73408>
- 永田祥子 (2020). 「対話を促す協働学習：英語で学ぶアクティブラーニングに関する一考察」『関西大学高等教育研究』11, 21-29.
- 永田祥子 (2019). 「PBLにおける学生の主体的な学び：グローバル人材育成を目指した授業実践」『関西大学高等教育研究』10, 47-54.
- 山本敏幸, 林康弘, 渡邊正樹, Ru-Shan Chen (2020). 「COIL型授業でアカデミック・インテグリティを実践した授業報告—台湾、致理科技大學と本学のアカデミック・ライティング—」『関西大学高等教育研究』11, 109-114.